

# 特別支援学級担任の手びき

～Vol.5 学習指導案について～



## I 学習指導案の役割

### ① 学習指導案の役割とは

学習指導案は、「児童生徒の学びたいこと」と「教師の教えたいこと」をつなぐための設計図です。学習指導案を作成することは、児童生徒に「どのような力を身につけさせるために」、教師が「どのような学習指導を行うのか」、授業の内容や手順を具体的に考えていくこと、と言えます。学習指導案には次のような役割が考えられます。

#### ●学習指導・授業の設計図としての役割

上に述べたように、学習指導案は、授業のねらいを達成するための設計図と言えます。同時に、実際の指導を進めていく際の進行表としての働きもあります。学習指導案を基に授業を行うことで、ねらいどおりの学習指導を、計画的に、効果的に進めていくことができます。

#### ●授業研究の資料としての役割

学習指導案は、研究授業などにおいて参観の観点を明確にし、指導者が何を伝えたいのか、自分の考えや思いを明確に打ち出し、共通理解を図るための資料として重要な役割を果たします。この場合、授業者はポイントをしぼり、簡潔に表現するなど、参観する相手の立場に立った内容の表記に努めることが大切です。

#### ●授業実践・研究の記録としての役割

授業を振り返って、児童生徒の反応、計画の変更点や反省点など様々な書き込みがされた学習指導案は、授業の記録としての役割を果たします。自らの授業力を高める上でも、授業を終えた後の学習指導案を活用することは、有効な手立てであり、次の授業改善への構想につながる資料となります。

### ② 学習指導案を作成する上で大切にしたいこと

児童生徒につけたい力にはどのような力があるでしょうか。人と関わったり協力できる力、自分の置かれている状況を受け止め、役割を果たす力、前向きに考える力、課題に見通しをもって取り組む力、自分を肯定的にとらえる力…等々。それは、児童生徒一人一人がまわりの人や社会との関わりの中で、自分の役割を果たしながら自分らしく生きていくために必要な力です。

普通の学習でのねらいが、児童生徒が社会で自分らしい生き方を実現するための力を育てることと関連づいていることが大切だと考えます。

### ③ 特別支援学級における学習指導案

特別支援学級においても、学習指導案は授業の設計図としての働きに変わりはありません。しかし、特別支援学級では、児童生徒の実態から指導の内容や計画を考えることに大きな意味があります。通常の学級の学習指導案では、例えば「単元について」は学習指導要領に沿った指導計画に基づき、教材観から書き始めることが一般的であるのに比べ、児童生徒の実態に基づき、単元（題材）を設定していきます。このことは、特別支援学級の授業づくりで最も大切にしたいことです。

#### ●実態把握から個別の指導計画の作成へ

児童生徒の実態を的確に把握することで、個に応じたきめ細かな指導計画を立てることができます。実態に合った適切な指導が、児童生徒の能力や可能性を伸ばすことにつながります。個別の指導計画は、児童生徒一人一人の実態に応じ具体的な指導を行うためのきめ細やかな計画です。児童生徒一人一人の教育的ニーズに対応して、指導目標や指導内容・方法が盛り込まれています。

※「実態把握」についてはVol.1を参照。また、「個別の指導計画」については和歌山県教育委員会が発行した「発達障害児指導事例集」に様式や記入例等が掲載されています。学びの丘Webページ「特別支援教育サイト」よりダウンロードできます。

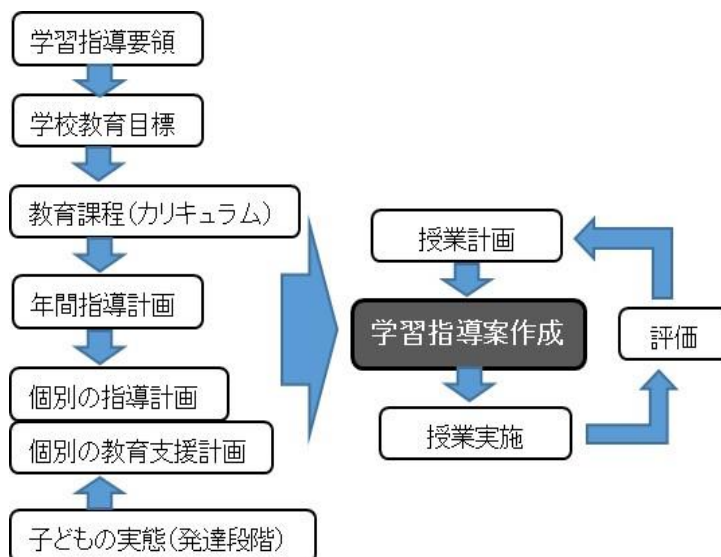
<http://www.wakayama-edc.big-u.jp/tokusi/tokusi.html>

#### ●個別の指導計画と学習指導案のつながり

個別の指導計画を日々の指導につなげていくためには、指導計画を具体化していく必要があります。

個別の指導計画の長期目標や短期目標を達成するために、この単元（題材）では、どのような目標で、どのような指導をしていくのか、学習指導案に反映させていきます。

肝心なことは、個別の指導計画と学習指導案が関連性や整合性があること、つまり、個別の指導計画が実践とどのようにつながっているのかを把握して実践していくことです。



## Ⅱ 学習指導案を書いてみよう

学習指導案には特に決まった様式はありません。ここでは、一つの様式例（細案）を参考に、学習指導案作成上のポイントを示していきます。

〈学習指導案 様式例〉

### 〇 〇 学 習 指 導 案

指導者 〇 〇 〇 〇 (T1)

〇 〇 〇 〇 (T2)

1 日 時 平成〇年〇月〇日 (〇) 〇限

2 学 年 第〇学年〇組 (男子〇名 女子〇名 計〇名)

#### 3 単元 (題材) 名

- ・単元名とは、いくつかの教材や活動で構成された一連の学習活動を指す。児童 (生徒) の視点に立ち、学習活動がイメージしやすく、ねらいや内容が一目でわかるように明記する。

#### 4 指導にあたって

##### (1) 児童 (生徒) 観→どのような子どもたちの実態か

- ・本単元 (題材) についての児童 (生徒) の興味・関心・意欲、取り上げる内容についてのこれまでの学習や経験からみた達成度、既習事項の定着度など、本単元 (題材) を進めていく前提としての児童 (生徒) や学級の実態を記述する。

一人一人の子どもの個別の指導計画の目標をふまえ、集団や個人の姿が具体的にイメージできるように記述します。個々に応じた指導の手掛かりとなること、指導上特に留意しておくべきことも記述します。  
個人情報管理には十分配慮します。

##### (2) 教材観→何を教えるか

- ・取り上げる教材の内容、既習事項との関連、その教材を取り上げることの意義やねらいを明確にする。学習指導要領の該当箇所を根拠に、本単元で身につけさせるために、どのような学習活動を行うのか、学習活動の概要を記述する。

児童 (生徒) 観で表記された課題と対応させ、なぜこの教材を取り上げたのか、その意義やねらいを記述します。  
個々に応じた指導の手掛かりとなること、指導上特に留意しておくべきことも記述します。

### (3) 指導観→どのように指導するのか

- ・児童（生徒）観や教材観を受けて、どのような指導をするのかというポイントを記述する。指導・支援の力点、指導の形態、その他の配慮事項など、児童（生徒）のよさや可能性を生かすような工夫や手立てを具体的に記述する。

## 5 単元の目標

- ・単元の学習の中で、児童（生徒）が何を習得し、どのような力を身に付けるのか具体的に記述する。
- ・学習指導要領で示された目標や内容等をふまえて設定する。
- ・文末は「～することができる」「～しようとする」など、児童（生徒）の立場で書く。

## 6 指導と評価の計画

- ・それぞれの時間の学習を簡潔に書く。その中に、本時の部分がどこに位置するのかを明示する。

指導と評価の計画（全13時間）

全部で何時間の単元になるのかを書きます。

次	学習内容	時	学習活動	評価規準（主な評価方法）
1	指導の過程や指導する内容が明確になるように、授業者の立場から簡潔に書きます。		具体的な学習活動について、児童生徒の立場から記述します。「どのようなことを」「どのようにして行うか」を実際に行う学習活動に即した表現で記述します。	「評価規準」とは、評価観点（※）によって示された子どもにつけたい力を、より具体的に文章化したものです。評価規準を作成するとき、それぞれの単元の学習内容と、つけたい力を関連づけて、具体的な文章表現を工夫することが大切です。
2	単元の学習活動全体を、数時間ごとにひとまとまりのものとした区切りを「次」と呼びます。			

※評価観点は「関心・意欲・態度」「思考・判断」「知識・理解」「技能・表現」などを使う場合や、学校独自の観点を使う場合があります。

## 7 本時の目標

### (1) 全体目標

- ・単元の目標を達成するために、本時において児童（生徒）にどのような力を身に付けさせるのかを具体的に記述する。（目標を一つに絞る方がよい）

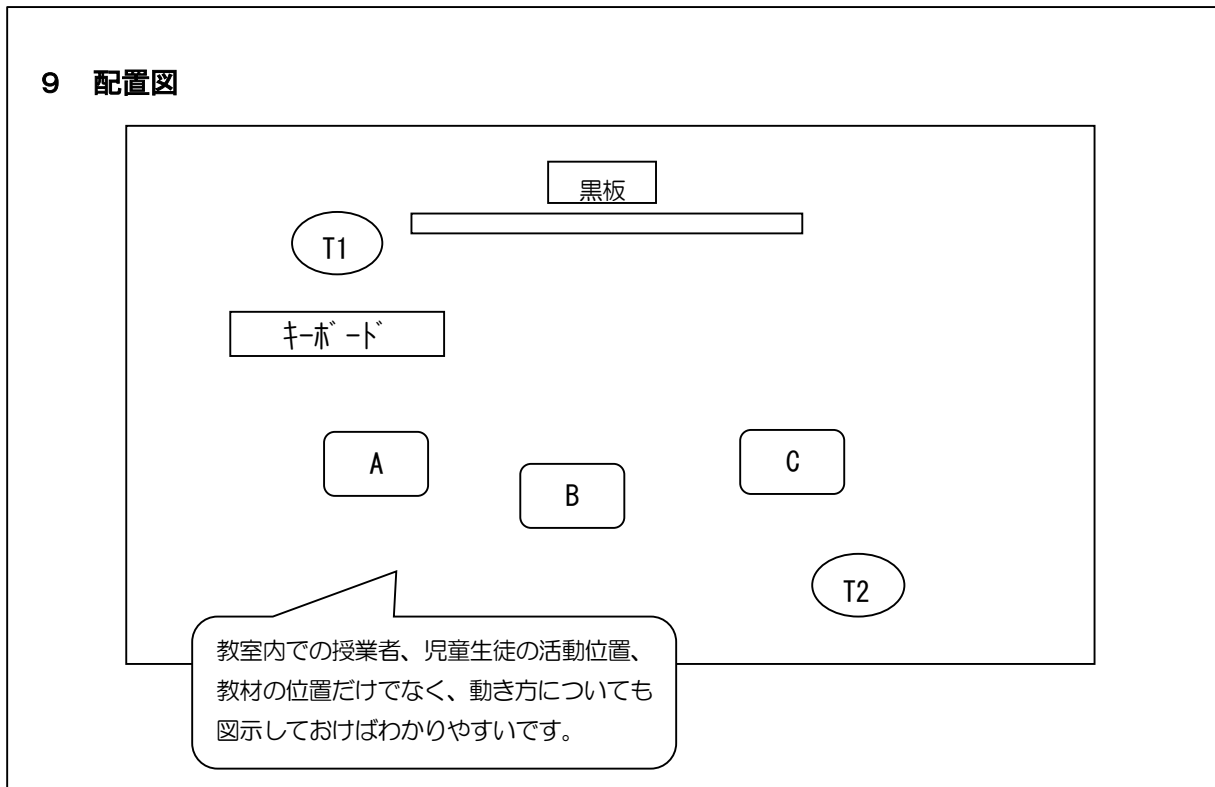
(2) 個別の実態と目標

児童 生徒名	単元（題材）に関する実態	単元（題材）に関する個別目標
A	<p>単元（題材）に関する実態をポイントを絞って書きます。できることに着目して何がどこまでできているか、どんな方法ならできのかを記述します。</p>	<p>全体目標と個別の指導計画の目標を対応させ、具体的な個人目標を設定します。児童（生徒）の実態は異なるため、目標も一人一人異なります。</p>
B		

8 本時の展開

時間	学習活動	支援方法・留意事項	評価
<p>本時の目標が学習過程につながっています。</p>			
導入 0分	<p>学習過程に沿って、児童（生徒）の活動を具体的に書きます。</p>	<p>学習活動と対応させて、教師の支援と留意事項を書きます。</p>	<p>評価規準を具体的に書きます。（単元の目標、本時の目標との整合を図る。）</p>
展開 0分	<p>・どんな活動をするか、児童（生徒）の学習する過程や活動する姿がイメージしやすいように書く。</p>	<p>・個別の指導計画の指導の手立てが支援方法とつながるようにする。</p> <p>・支援の対象がわかるように、全体への支援は□、個別の支援は○等で示す。また、個別の支援は誰に対する支援かをわかるように表記する。</p>	<p>・どの場面で、どのような観点で児童（生徒）の学習の様子や課題達成の状況を評価するのか記述する。</p>
まとめ 0分	<p>文例： ～を確かめる。 ～について話合う。 ～についてまとめる。 ～を表現する。</p>	<p>・手立ては、次のような視点を取り入れる。 「目標を実現するための手立て」 「主体的な学習を進める手立て」</p> <p>・T1、T2の役割を明確にする。</p>	<p>・評価の方法を書く。 「観察（行動、発言、表情等）」「ノート」 「ワークシート」「作品」 「ペーパーテスト」など</p>

## 9 配置図



### 【参考】特別支援学校（知的障害）「本時の展開」様式例

○よく見られる様式

学習活動（学習内容）	指導上の留意点	評価

○特定の機能を重視した様式例

①全体の活動と個への指導・支援の両方が見える

学習の流れ	主な学習活動と教師の指導や支援				備考
	A	B	C	D	
	児童生徒共通の学習活動				
	個別の学習活動	個別の学習活動	個別の学習活動	個別の学習活動	
	※教師の指導・支援	※教師の指導・支援	※教師の指導・支援	※教師の指導・支援	

②教師の動きが見える

学習内容	T 1	T 2	T 3	T 4	備考

③グループごとの指導の様子が分かる

主な学習の流れ	Aグループ (児童生徒氏名)	Bグループ (児童生徒氏名)	Cグループ (児童生徒氏名)	備考

○「キャリア教育」の視点を取り入れた様式例

「キャリア教育」とは、キャリア発達（社会の中で自分の役割を果たしながら、自分らしい生き方を実現していく過程）を支援し、一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な能力や態度を育てることを目指すものです。学習指導要領の中にも、随所にキャリア教育が目指す目標や内容が盛り込まれています。子どもの実態や学校の実情を踏まえ、従来の学習活動をキャリア教育の視点でとらえることで、授業をとおして「家庭や地域での生活や将来を見据え、自分らしく生きていく力」が育てられていくと考えます。

活動内容	ねらい 評価の視点	キャリア教育 の視点	支援方法

※キャリア教育でつきたい力の例

それぞれの学校・地域等の実情や、各校の児童生徒の実態を踏まえ、学校ごとに育成しようとする力の目標を定める。

A	人間関係形成能力	① 人との関わり ② 集団参加 ③ 意思表示 ④ 挨拶
B	情報活用能力	① 様々な情報への関心 ② 情報理解・選択 ③ 社会資源の活用マナー
C	将来設計能力	① 習慣形成 ② 役割 ③ やりがい
D	意思決定能力	① 自己選択 ② 振り返り

## 引用・参考文献

- 宮城県特別支援教育センター  
特別支援学校教師のためのサポートブックⅡ学習指導案を書こう30のポイント（2010）
- 文部科学省 小学校キャリア教育の手引き（改訂版）（2011）
- 京都府総合教育センター 質の高い学力を育成する学習指導案ハンドブック（2013）
- 千葉市養護教育センター  
特別支援学級担任のためのハンドブック（学習指導案編）（H25年度 調査研究）（2013）
- 茨城県教育研修センター特別支援教育課  
特別支援学級スタート応援ブック 授業づくり編（2013）
- 東京都教職員研修センターHP 学習指導案書式例（特別支援学校・特別支援学級）  
[http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/O3hissyu/files/sho\\_03.doc](http://www.kyoiku-kensyu.metro.tokyo.jp/O3hissyu/files/sho_03.doc)
- 鹿児島大学教育学部 肥後祥治 雲井未歆 片岡美華／鹿児島大学教育学部附属特別支援学校  
「特別支援教育の学習指導案と授業研究 子どもたちが学ぶ楽しさを味わえる授業づくり」  
ジアース教育新社（2013）